

これからの予定



★酒井京子さん（紙芝居文化の会代表・童心社会長）

日時 5月10日（金）10時から

場所 紙芝居はうす

さて、今年はどんなお話を聞けるでしょうか。
いつも「もう話すことなんかないわよ～」と言われますが、とんでもない！

いくらでも出てきます出てきます楽しいお話を。
「この作品についてぜひ！」のリクエストもお寄せください。

※はうす開催日が変わりますのでお気をつけて

★紙芝居連続講座 in 日進

紙芝居あいち
10周年企画

「紙芝居について深く学びたい」
「もっと上手に演じたい」紙芝居あいちの会員
から寄せられる熱い声です。

東京で開催される演じ方連続講座（6回）を
ぎゅっと凝縮して3日間午前午後で、講義と
実演へのアドバイスを受けられます。

講師3名を東京より招きます。

日時 2025年1月から3月の3回を予定

場所 日進市内、近郊

募集人数 20人

少人数の開催です。受講希望の方は、お早めに
問い合わせてくださいね。

★うれしいご報告

2024年度「子供の読書活動優秀実践・個人文部
科学大臣表彰」を近藤洋子さんが受賞されました。

★紙芝居はうす日程

2024年5月10日（金）日程変更！

6月10日（月）10時～16時

Zoomは14時～15時半

7月以降、基本、第2月曜日10時～16時
Zoomは6月、10月の予定です。

コラム 《ま・間・ま》

「ホーホケキヨ ホーホケキヨ」あ～！今年も聞けた！今年は昨年より4日早く3月4日だった。この声を聞くのが待ち遠しいのは春告げ鳥だからか？確かにそれもあるが、周りの生息できる自然が少なくなっているから、あ～生きていて良かったと！今年は珍しく人通りのある梅ノ木で鳴いていた。姿も見られた。今まで、竹薮か池の周りの茂みで声だけで姿はなかなか見せてくれなかつた。「梅に鶯」とよく言われるが鶯は花の蜜は吸わないし、警戒心が強く人前には現れないそうだ。だから、梅と描かれた鳥はメジロとか。3月末になつて、我家の隣りの竹薮で鳴いている。ただ、この竹薮も切り倒されるという情報が入っている。来年は聞けないかもしれない。

気象庁が生物季節観測でよく初鳴きを報告してくれていたが、2021年に鶯はじめ動物の初鳴きは廃止されてしまった。私は自分なりの感覚で鶯や蝉の初鳴きを遠方の友人に発信している。桜は観測対象！今年は予想を裏切つて開花宣言が遅れている。気候の異常がわかる？

紙芝居文化の会 あいち とは



こんなことやりたい

- ・通信を発行します
- ・紙芝居講座を開催します
- ・情報交換をします

会員になるには



紙芝居文化の会にご入会下さい

詳しくは、紙芝居文化の会

<http://www.kamishibai-ikaja.com/>

または、下記連絡先まで

紙芝居文化の会あいちの会費は不要です

愛知県内だけでなく近隣の方々もご参加下さい

連絡先

〒470-0126 日進市赤池町村東149

紙芝居文化の会あいち代表 近藤洋子

FAX 052-801-5794

kamishibaiichi@yahoo.co.jp

紙芝居文化の会 あいち

第26号
2024.4



紙芝居文化の会とは

- ・紙芝居を愛する人
- ・紙芝居に興味のある人
- ・紙芝居を演じたい人
- ・さまざまな思いの人、海外の人とも
出会い、交流する場です。

（2001年創立 事務局東京都三鷹市）

★松井エイコさん

『まついのりこ』～知らない土地も
愛することでやがてふるさととなる～

1月15日（月）14時～16時

豊田市の小学校で講義をされる為に愛知にみえた松井エイコさん。忙しい合間を縫って紙芝居はうすにも来てくださいました。

今回のテーマはお母さまである、まついのりさんの生涯ということで、ベトナムのキム・トン社から刊行された伝記本『まついのりこ』を手に、ご家族の思い出を交えながらお話ししてくださいました。

特に印象的だったのが、エイコさんが小学生の時に学校の課題のためにのりさんが文章に書いて渡してくれたという戦争体験の手紙でした。生々しく悲痛な内容を実際体験されたのりさん、そのお話を聞いて育ってこられたエイコさんのひとつひとつとの言葉に、心からの平和への願いが感じられ、胸が熱くなりました。

その後の『象牙の櫛』。柔らかな手つきで大切な宝箱を開けるように舞台の扉が開かれました。やさしく穏やかな口調と自然な抜き差しで物語が進み、また扉が閉じます。エイコさんのお話の後で観る『象牙の櫛』は、また一段と心の奥に沁みました。貴重な体験をありがとうございました。



★野坂悦子さん・柳亭市若さん

落語で楽しむ図書館

日進市立図書館 2月24日（土）14時～16時

「落語で楽しむ図書館」と題して落語家 柳亭市若さんの落語と母である翻訳家・作家 野坂悦子さんの親子対談と講演「オランダの本と文化と子どもたち」が開催されました。参加者は応募者多数の中から、小学生含み老若男女の70名。

市若さんの落語のイロハは興味深く、実演の「饅頭怖い」は最後の落ちで爆笑でした。

野坂さんは舞台上に並べられたご自身の翻訳本を一冊ずつ手に取り、作家のことやオランダの生活風景についても説明されました。さらに、オランダ生まれの市若さんと野坂さんの親子対談は、和やかで「なかなか親子でも聞けないことがある」と市若さん談。

その後、紙芝居文化の会 あいちの例会場においてお二人を囲み、いつものメンバーでアルコール付きの夕食となり、落語や翻訳の裏話が聞けて有意義な時間でした。

この講座を通して私たちも図書館で身近に落語に興味を持ち、楽しめることを実感しました。また、翻訳家の野坂さんよりじかに話を聞くことで、それらの作品に愛着を感じ取ることができ、素敵な時間でした。



★おおつかのりこさん

「海外絵本が翻訳されるまで」

3月11日（月）10時～12時

3月11日（月）におおつか のりこさんにお会いしてお話をききました。部屋の中に入るとおおつか のりこさんが書かれた図鑑や翻訳された本がたくさん並んでいてとてもわくわくしました。

翻訳する本をどうやって選ぶのか伺ったところ、絵本は自分で選ぶことが多く、外国の書店で探したり、レビューをみたり、その本の売れ行きや「X」のつぶやきなどを参考にして選んでいるそうです。

作家の人がなにを言いたいのか理解し、英語を日本語にするときにどの言葉を選ぶのか深く考えて翻訳するそうです。

ひとつひとつの言葉が本当に大切に訳されているのを感じました。

私は『じぶんのきもち みんなのきもち』、『わたしのかぞく みんなのかぞく』が印象に残りました。そして子どもにもぜひ手にとってほしいと思いました。

本ができるまでのお話を聞くことができて、とても楽しい時間を過ごすことができました。

